

琵琶湖定点定期観測結果速報(令和元年10月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご注意ください。

調査年月日 令和元年10月7日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 …… 5地点の平均値

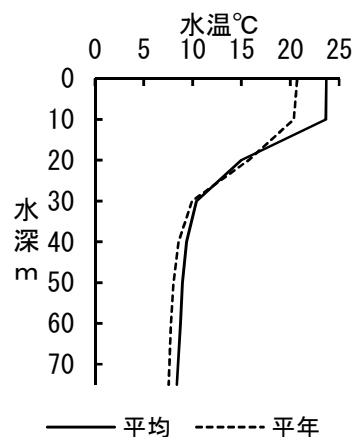
平年値 …… 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1981年～2010年(昭和56年～平成22年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2009年～2018年(平成21年～平成30年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 10月平均値 7.0m 平年値 5.5m

2. 湖水温 (°C)

水深(m)	10月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	23.7	20.7	+3.0
10	23.6	20.4	+3.2
20	15.0	15.7	-0.7
30	10.4	9.9	+0.5
40	9.4	8.6	+0.8
50	8.9	8.0	+0.9
60	8.7	7.8	+0.9
75	8.4	7.5	+0.9



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
9月下旬	24.7	23.1	+1.6
10月上旬	23.8	21.5	+2.3
10月中旬	20.8	20.0	+0.8

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	10月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	9.7	15.5	-5.8
10~20	3.9	3.5	+0.4
20~40	0.7	1.0	-0.3
40~75	0.1	0.4	-0.3

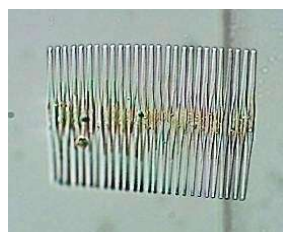
(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンについては、地点1で*Fragilaria crotonensis* (オビケイソウ:珪藻)が、地点2~5では*Cosmocradium constrictum* (コスモクラジウム:緑藻)が細胞数で最も多くみられた。

動物プランクトンについては、全ての地点で*Eodiaptomus japonicus* (ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類)と*Cyclopoida* (ケンミジンコ科:カイアシ類)のものと思われるノープリウス期幼生が個体数で最も多くみられた。



Fragilaria crotonensis



Cosmocradium constrictum



ノープリウス期幼生

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/l)

水深 (m)	10月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	8.24	(99.4)	8.98	(103.2)	-0.74	(-3.8)
10	8.25	(99.3)	8.78	(100.7)	-0.53	(-1.4)
20	6.02	(61.3)	7.18	(74.3)	-1.16	(-13.0)
30	7.40	(68.3)	7.95	(72.8)	-0.55	(-4.5)
75	1.75	(15.4)	4.62	(40.0)	-2.87	(-24.6)